

授業科目名	ビジネスアカウンティング論	担当教員	小畑 克典
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	<p>企業の経営活動が複雑化、多様化する中で、自社や取引先あるいは投資先などの経営実態を正しく把握するための手段として、代表的な企業情報である会計情報（貸借対照表や損益計算書などの財務諸表）を理解できる能力（会計リテラシー）が求められる。</p> <p>簿記を知らなくても、財務諸表の構造や諸法令などの知識と分析力を基に、企業の財務状態、経営成績、キャッシュ・フローの状況などを判断することができる。これらの能力を身に付け、会計リテラシーを持つ人材を育成する。</p>		
到達目標	<p>(1) 会計の用語、財務諸表の構造・読み方・分析等を理解するための基礎的な力を身に付ける。</p> <p>(2) 企業の経営戦略や事業戦略を理解するため、財務諸表を分析する力を身に付ける。</p> <p>(3) 本講義履修後には、大阪商工会議所が主催するビジネス会計検定3級合格と同等の力を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション。 会社の健康をおカネの面で見分ける3つの材料 ①どれだけ持っているか ②どれだけ儲かっているか ③おカネが回っているか</p> <p>第2回 一枚絵でざっくり理解する：財務諸表の全体像</p> <p>第3回・第4回 「何をどれだけ持っているか」を見る： バランスシート（貸借対照表）</p> <p>第5回・第6回 「儲けが出ているか」を見る：損益計算書</p> <p>第7回 「儲けの使い道」「損失の落とし前」：資本と株式会社の論理</p> <p>第8回 「カネが回らなかつたら行き詰まる」：キャッシュフロー</p> <p>第9回 決算の粉飾を見抜く</p> <p>第10回 KPI とはなにか： 組織のパフォーマンスを測る（おカネ以外の）ツール</p> <p>第11回 「金融」と「資金調達」</p> <p>第12回 まとめ。実際のアクションに繋げる手立て</p>		
事前・事後学習	<p>授業のテーマに沿って、課題の提出を求めることがある。課題の提出状況・内容は、成績評価の対象となる。</p>		
テキスト	なし。		
参考文献	都度指示		

成績評価の基準	<p>受講態度（出席、授業中の議論への貢献） 35%</p> <p>宿題・課題の提出状況・内容 25%</p> <p>期末試験 40%</p>
履修上の注意 履修要件	<p>電卓を持参してください。</p>
実践的教育	<p>経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当します。</p>
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義は、財務・会計についての知識を習得するだけでなく、財務・会計を通じて企業・事業の状態についての洞察力を養うことを目的とする。</li> <li>「ビジネス会計検定3級合格」を具体的な目標とする学生は、担当教官に個別に相談のこと。</li> <li>・定員超過の場合、抽選により履修者を選定する。</li> </ul>